

「父親の家庭教育参加を考える集い」

趣 旨 日頃家庭教育に関する学習機会の少ない父親を対象に、家庭教育における父親の役割について学習する機会を提供する。

実施主体 新潟県地域家庭教育推進協議会 新潟県教育委員会 (主管：上越教育事務所)

参加対象 上越管内の幼児～小学生の子をもつ父親とその家族

参加者数 6家族24名

回 数 2回 **日 数** 2日間 **時 間** 各6時間

場 所 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立妙高青少年自然の家

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6月25日(日) 10:00～16:00	父親だからこそできる家庭教育とは何か？みんなで考える。～父親から子への伝授～	宮田和幸(元大手町小PTA会長) 自然の家職員
	内容・方法	<p>【講話】「父親だからできること」 講師：宮田和幸さん(元大手町小学校PTA会長)</p> <p>【グループ協議】「父親だからこそ伝授できることをさがしてみよう」をテーマに、講話の内容を参考にしながらお互いに日頃感じていることや思いを話し合う。</p> <p>【実技】「アウトドアから始めよう。— 火をつける・パン生地をこねる・焼く —」協議を活かし、まずは自分たちの考えを実際にやってみる。その一つとして、家族みんなで共通に体験できて、しかも父親が表に出ることができる「野外料理」を取り上げて実践する。</p>	
2	7月2日(日) 10:00～16:00	子どもと一緒に遊ぶ楽しさ、一緒に育つ喜びを思い出す。～子育ては親育てを実感～	なし
	内容・方法	<p>【実習】親子活動「親子でパン作り」— 父親が家族のリーダーとなってパンを焼く — (伝授内容 ①パン生地作り ②火起し、火の管理 ③ピザやパンの焼き方)</p> <p>1回目の実技を活かして、2回目は家族単位で父親が母親や子どもに野外のパン作りを教えながら、パンを焼いて食べる。小麦粉を練って生地作りをするという作業を取り入れると、小さな子どもも喜んで参加できる料理となる。父親が家族のリーダーとしての姿を示すとともに、家族が一緒に1つの作業を通じて絆を深めるといふねらいがある。</p>	

成 果

- ・ 「父親はこうあらねばならない」という座学で終わるのではなく、家族とふれ合う時間を確保し父親の出番をつくることにより、子どもや家族と過ごす楽しさや充実感を実感して子育てを見直す内容へと改善することができた。
- ・ 2日目の家族の会話の中に夏休みの計画が話題にのぼるなど、この講座を夏季休業前に実施することで、家族でふれあう機会の増加へ結びつけることができた。

課 題

- ・ 参加した父親や家族は、日頃から家庭教育への関心が高いと思われる。しかし、家庭教育への関心の低い父親、関心があっても参加しようとする決断力のない父親をいかに参加させるかが今後の課題である。
- ・ 父親の家庭教育参加を啓発するため、今事業の前に上越地区PTA指導者研修会の部会別協議に取り上げた。今後は、事業運営そのものに市P連との連携を図るなど、より具体的な連携を探っていくことも検討したい。

問合せ先

新潟県教育庁上越教育事務所社会教育課

〒943-8551 上越市本城町5-6

TEL 025-526-9377 FAX 025-523-7542

E-mail T5010103@mail.pref.niigata.jp